

令和6年度 長崎県 英語教育改善プラン

目標

積極的にコミュニケーションを図り、英語で自分の考えや気持ちなどを発信することを楽しむ児童の育成を目指す。

1. 目標に対する現状

①児童の言語活動の割合

	50～100%	75～100%
R5達成値	90.8%	50.2%
前年比	+4.0	+6.5

②「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用

	設定	公表	把握
R5達成値	60.5%	23.7%	49.7%
前年比	+10.0	+3.2	+5.4

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①パフォーマンステストの実施状況
「実施あり（実施予定を含む）」
の学校の割合
(R4:94.5% ⇒ R5:88.5%)

②小中連携の実施状況
(R4:89.2% ⇒ R5:87.4%)

2. 要因分析

①②

・小学校での言語活動の質及び学習到達目標の活用が高まっている。

・R5年度に小学校教員対象アップデート研修を実施した。内容は「言語活動」及び「評価方法」について。研修を通して、言語活動を通して資質・能力の育成を図る授業作りや、学習到達目標への意識の向上が見られたことも要因と考えられる。

①R4年度から減少した。児童の学習状況を適切に把握するテストの在り方及び評価方法についての理解を深める必要があると考えられる。

②R3年度調査から2年連続減少し続けている。新たな課題解決に着手したところ、意識が薄れた市町があったことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

R5～R7年度に「Believe You Can」英語発信力強化事業を展開している

①先進モデル校指定事業（2市／小1校、中2校）
グローバル人材の育成を目指して、異文化交流を含む先進的な研究を行い、その取組を県内に広く発信する。ALT等を活用した教室での学びを地域の外国人等との教室外での学びとつなげることで授業での言語活動の質を高めるなどして、一層の充実を図る。

②アップデート研修（3年間12地区）R5～R7
「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の活用を図る講義及び演習を研修内容の一つに設定する。指導経験の有無に関わらず、受講者が主体的に実践しようとする単元構想及び言語活動の設定、学習状況の把握の手立て等を学ぶ機会を提供する。

①アップデート研修（3年間12地区）
学習到達目標の活用に係る講義及び演習の中で、学習状況を適切に把握するためのパフォーマンステストを研修内容として扱い、効果的な実施を促進する。

②グローバル人材育成協議会（年2回）
これまでの小・中・高・大の教育関係者の連携体制を生かすとともに、小中連携を英語教育、ひいてはグローバル人材育成に資するものと位置付け、協議会を通して課題解決に向けた取組を県内全域で展開し、改善を図る。

【一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組】
英語の外部試験資格を所持する受験者及び中学校教員免許を所持する受験者に加点制度を設けている。

令和6年度 長崎県 英語教育改善プラン

目標

英語をコミュニケーションツールとして国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、積極的にコミュニケーションを図り、英語で自分の考えや気持ちなどを発信することを楽しむ生徒の育成を目指す。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 R5 48.6% ⇒ R6目標値 60%

○積極的に英語で発信している生徒の割合 R5 60.7% ⇒ R6目標値 60% ⇒ R7目標値 70%

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語担当教師の英語力

R5達成値41.9%
(前年比+6.1)

②「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用

	設定	公表	把握
R5達成値	95.8%	52.7%	71.3%
前年比	+0.6	+2.7	▲2.2

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力

R5達成値48.6% (前年比▲0.6)

②生徒の言語活動の割合

	50～100%	75～100%
R5達成値	73.2%	16.1%
前年比	▲4.1	▲4.0

③全国学力・学習状況調査における「まとまりのある文章を書く」問題

大問10	正答率	無解答率
R5達成値	5.2%	20.4%
H31達成値	1.2%	6.3%

2. 要因分析

①教員採用選考試験の加点制度等を通して、CEFR B2相当の英語力を有する教員は増加。しかし授業中の英語使用状況は59.3%とR4年度から▲14.9であり、対策が急務。

②R5年度実施の授業改善研修が英語教師の意識及び英語力、学習到達目標の活用につながったと考えられる。
・調査問題を通して単元ゴールの設定及び生徒との共有の重要性を伝えた。

①② R4年度までのスキルアップ研修で、生徒の英語力向上及び言語活動の充実について取り上げた。R5年度に新たにグローバル人材育成事業に着手したが、前年度までの取組の継続に地域間の差が生じたことが要因と考えられる。
③H31年度に引き続き、「まとまりのある文章を書く」ことについて、大きな課題がある。また今回は、約20%の生徒が無解答という状況があった。何を書けばよいか、どのような表現を用いればよいかといった言語面及び内容面の両方で、考えや気持ちを書き表す言語活動が不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

R5～R7年度に「Believe You Can」英語発信力強化事業を展開している

①②授業改善研修会（R5）

- ・学力調査の結果分析から成果と課題を確認するとともに、英語教育実施状況調査から見える教師の英語力及び授業での英語使用、言語活動の充実の重要性を共有する。
- ・課題改善に向けた授業作り及び指導、評価の具体的な手立て（学習到達目標の一層の活用方法等）を共有し、英語教師の指導力及び生徒の英語力向上を目指す。

①②③授業改善研修会（3年間12地区）R6～R8

- ・授業研究会等における指導助言の際に、言語活動の割合に触れ、生徒の英語力との関係性を伝え、全市町で50%以上の生徒の英語力、英語使用を達成する。
- ・「書くこと」に留まらず、「話したことを書く」、「聞いて、読んで知ったことについて書く」といった技能統合型の言語活動の重要性を伝え、英語で表現したり、伝え合ったりするための資質・能力の向上を図る。

①②③グローバル人材育成協議会（年2回）

- ・これまでの小・中・高・大の教育関係者の連携体制を生かすとともに、小中高連携を英語教育、ひいてはグローバル人材育成に資するものと位置付け、協議会を通して課題解決に向けた取組を県内全域で展開し、改善を図る。

令和6年度 長崎県 英語教育改善プラン

目標

英語をコミュニケーションツールとして国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。
ICT機器等を活用しながら英語の「読む、書く、聞く、話す」の4つの技能をバランスよく育むとともに、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。
○スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合 R5 84.3% ⇒ R6 目標値90%
○授業における、生徒の言語活動の割合 R5 54.4% ⇒ R6 目標値60%
○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5 : A2以上45.2%、B1以上16.5% ⇒R6 : A2以上 50%、B1以上 22%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合について、目標としてきた50%を大きく上回った。
(R4:48.7%⇒R5:84.3%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合依然として5割を下回っている。
(R4:44.8%⇒R5:45.2%)
② 授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合は54.4%であり、本県の目標とする60%には届かなかった。
(R4:55.8%⇒R5:54.4%)
* 全国平均は54.3%

2. 要因分析

①について
学校訪問や各種研修会、県英語教育研究大会など、機会を捉えて評価について取り上げたことや県独自の英会話力テストの実施で、パフォーマンステストの実施及び評価に対する意識が高まったと思われる。

①について
外部試験受験者数の減少も要因の一つとして考えられる。
パフォーマンステストの実施率は大幅増しているものの、言語活動の割合は低く、授業内容の工夫と指導と評価の一体化に向けての改善が必要。
②について
生徒の英語力を高める目的としての言語活動の割合を考慮しながら授業を行っていく必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①
今年度も学校訪問による指導や初任者研修などの研修会において、評価についての確認や情報交換などを実施する。
また、先進的な取組や好事例について情報を提供する。

◆“つながる・広がる”英語教育支援事業

研究指定校を中心に、1人1台端末を活用して授業の中で英語を使う機会を設け、言語活動をととして生徒の英語による発信力の強化を図る。
また、各学校で実施した教材や指導法について、研究指定校からの聞き取りや研究指定校同士の情報交換の機会を設定することで、より良い指導法や活用法を確立する。

① ②について、引き続き英語教育の充実を図り、生徒が相応の英語力を身に着けるようにしていく。そのために、英語担当教諭への情報提供や情報交換を引き続き行う。また、令和6年度から本県に英語の指導教諭が配置されたため、初任者研修や各学校への訪問等を一緒に計画していくことで本件全体の英語教育の充実を図る。

長崎県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	45.2	50		53		57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		22	16.5	22		22		22		22	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		65	54.4	65		65		65		65	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		50	84.3	90		90		90		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	60	50.7	60		60		60		60	
		達成状況の把握（％）	70	60	70		70		70		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		84	83.6	85		85		85		85	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		70	30.5	70		70		70		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	48.6	60		60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	73.2	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	88.2	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	95.8	100		100		100		100	
		公表（％）	55	52.7	55		60		65		70	
		達成状況の把握（％）	100	71.3	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	41.9	50		50		50		50	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	59.3	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	80	60.5	80		80		85		90	
		公表（％）	35	23.7	35		40		45		50	
		達成状況の把握（％）	80	49.7	80		80		85		90	